令和6年度 第3回 日野市子ども条例委員会
議事録

日 時 令和7年1月28日（火曜）午前10時00分～午前11時30分

場 所 日野市子ども包括支援センター「みらいく」3階 多目的室

出席者 委 員 沖田委員 菊池委員 小瀬委員 小陳委員 三浦委員 掛川委員
堤委員 田邊委員 馬場委員 田中委員

事務局 村田子ども部長 飯倉子育て課長 猪鼻子育て課主幹
加藤子育て課主任 木暮保育課長 高原発達・教育支援課長
熊澤子ども家庭支援センター長

意見参考人 日野社会福祉協議会 宮崎氏

欠席者 なし

傍聴者 2名

（開 会）

事務局

それでは定刻前ではございますが皆様お揃いになりましたので、ただいまより令和6年度第3回日野市子ども条例委員会を開催したいと思います。

皆様におかれましては、本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日の出席状況ですが、出席者は10名、欠席はないことをご報告いたします。なお本日は傍聴の希望があり、事前に委員長に確認し許可を得ているため、傍聴席に着席していただいておりますので予めご承知おきください。事務局からの報告は以上となります。

委員長

本日の出席人数について、事務局より過半数の出席があるとの報告がありました。よって、日野市子ども条例委員会規則第2条第5項の成立要件を満たしていますことをご報告いたします。

それでは委員会を進めさせていただきます。

まずは事務局より本日の配布資料等の説明をお願いします。

事務局

それではお配りした配布資料について説明をさせていただきます。まず事前配布資料として資料1、日野市子ども若者未来創造会議について、資料2、日野市子ども条例周知啓発事業について、資料3、令和7年度日野市子ども条例委員会次回及び次々回委員会開催候補日、資料4として知ってる？日野市子ども条例のリーフレット案をお送りしております。また、本日の委員会の資料ではございませんが、第4次日野市学校教育基本構想のチラシと、令和6年度日野市多文化共生推進事業、多文化共生の地域づくり講座のチラシを事前にお送りしております。

また当日配布資料として、まず1つ目に本日の次第の当日差し替えをお渡ししております。こちらほぼ変更ないんですが、日社協と略称で記載していたことや今回ハートフルプロジェクト事業そのものが検証事項ではないので少し表現を変えさせていただいております。また日野市子ども条例啓発用動画のシナリオと、日野市社会福祉協議会よりハートフルプロジェクトの説明資料を配布していますので確認いただければと思います。社会福祉協議会の資料以外は本日机の上に置いてある封筒の中に入れておりますのでお出しいただくようお願いいたします。

それでは本日の資料に不足がございましたらこの場でお申し出ください。また本日、日野市子ども条例のポケット版をお持ちでない方がいらっしゃいましたらお申し出ください。配布資料の確認は以上となります。

本日の委員会につきましては、日野市子ども条例委員会規則第9条により、委員会及び委員会資料については原則公開となります。また、議事録についても後日委員の皆様にご確認いただいた上で日野市のホームページ上で公開となりますことを予めご了承ください。議事録作成のため、議事を録音させていただくこともご了承ください。マイクの配置ですが委員長・副委員長のところに1つ、市民委員4名のところに1つ、学識経験者4名のところに1つ、事務局に1つ設置とさせていただきます。マイク回しにつきましては発言する際にその中でマイクを回していただくようご協力のほどよろしくお願いいたします。また、ボイスレコーダーも音声を拾いやすいように皆様の近くに置かせていただきます。合わせてお願いいたします。以上となります。

委員長

ありがとうございます。

改めてただいま事務局から委員会の公開について説明がありましたが、この委員会は原則公開となっており傍聴もできますし議事録も公開されます。そうしたことも踏まえ、委員の皆様におかれましてはそれぞれの発言内容を互いに尊重し、建設的な話し合いの場となるようご協力をお願いします。

それでは次第1、委員長挨拶ということになっておりますので、簡単に挨拶をさせていただきます。

まずは年が改まりましたので、どうぞまたよろしく願いいたします。年は改まりましたけれども、内容的には継続するようなことばかりです。また本日の次第を見ますと報告だけではなくて検証事業もごございますので、どうぞ皆様いろいろご意見をいただきながら、またご協力いただきながら進めていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

では次第2、報告事項に移ります。本日は報告事項がありますので、1点ごとに質疑応答を行い たいと思います。事務局から報告をお願いします。

事務局

それでは報告事項について説明させていただきます。資料1、日野市子ども若者未来創造会議についての報告をさせていただきます。資料の方をご確認ください。こちら前半部分については既に10月の委員会の方で報告済みなので省略させていただきます。

資料の8ページ目にお進みください。こちらは11月3日の手をつなごう・子どもまつりのステージでの発表となります。今回発表された方は緊張されていたんですがしっかりと発表をされていました。各グループの発表の後に副市長から、本当に素敵なアイデアだったこと、全てのグループが日野で暮らしているからこそ見えてくるニーズをしっかりと把握して、こんな日野市にしたいというアイデアがまとめられていて、各グループの発表を想像するだけでわくわくすると言ったような好評をいただいたところです。発表の後には副市長への質問コーナーがありまして参加者から様々な質問があり、副市長が丁寧に答えておりました。参加者より、自分の好きな日野のまちについていろんな人と話ができてこうなったらいいなというまちについて多くの人の前で話す経験はとても良い機会だったといった感想をいただきました。

9ページ目にお進みください。こちら、手をつなごう・こどもまつりの会場に展示したワークシートについては日野市のホームページ上で公開しております。その中に副市長からの総評や副市長が日野市にかける思い等も掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。また今回各グループが作成したワークシートは、11月3日の会場での展示の他、11月19日から29日までは日野市役所の1階の市民ホール、12月10日から年明けの1月7日までは七生支所の展示スペースの方で展示させていただいております。また、12月7日に開催された HiNoël（ヒノエル）の会場である仲田の森蚕糸（さんし）公園で成果品をまとめたチラシの配布を行いました。皆様もよければ一番よかったと思う発表を自分なりに選んでみてください。報告は以上となります。

委員長

ありがとうございました。

報告事項1について、ご意見・ご質問があればお願いいたします。
どうでしょうか、ではお願いいたします。

委員

よろしくお願いします。

この子ども若者未来創造会議について、発表が一番最後の成果だとは思いますが、そこからいろいろアイデアが出たということで何かアイデアから何かつながって行くようなことはあったのでしょうか。

事務局

今回11月3日に発表した際に副市長から総評をいただきました。また、質問コーナーの中でいくつかアイデアが出まして副市長が答えておりました。ここで出たアイデアについては、まず市の方で意見として受け止めさせていただいて、なかなかすぐに実現できるようなものばかりではなかったんですけども、今後こういった子ども・若者の声があるということを受け止めさせていただいて、施策に生かせるかどうかというのを検討していくことになっております。今回いただいたアイデアを参考にしていき、市の施策に生かしていければと考えているところです。以上です。

委員長

よろしいでしょうか。

他はどうでしょうか、お願いいたします。

委員

おはようございます。

今の子ども・若者の会議の件で何か形になったらいいなということでお話がありましたけれども、市役所のいろんな課で市民の方の声を拾う取組はあるかと思うんですね。ただそれぞれの課で終わってしまって共有がされてなかったりですか蓄積がされていないのかな、と思うところがありまして、せっかくこれだけたくさんの方が意見を上げてくださったので次につながるような蓄積されて後で参照して形にできるような工夫を、難しいとは思いますが、考えていただけるといいのかなと、貴重な意見だなと思いました。以上です。

委員長

ありがとうございます。

今、共有とか蓄積ってということでは何かありますでしょうか。

事務局

今回こういった発表があったっていうことは庁内の中でも周知させていただいたり、10月の時も少し説明しましたが、今後例えば日野市の妄想実現課の発表の際にもこういったことを子育て課でやりましたよっていうように情報共有させていただいたり、まさに今いただいた意見の通り、いかにして市役所の中で市民からいただいたアイデアの共有であったりとか、こういった意見が市民からあったよっていうところを周知していくのは大切なことだと思っておりますので今の意見を参考に今後こういった形でこれを広げられるかどうか検討していきたいと思っております。以上です。

委員長

ありがとうございます。

他、何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では続いて、次第3、検証事項になります。まずは事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは続きまして資料2、日野市子ども条例周知啓発事業について説明をいたします。こちら検証事項となっておりますので市の周知啓発事業の取組はここで説明させていただく形をとっております。

資料2の2ページ目にお進みください。啓発用動画の制作についてになります。こちら10月の委員会でもお伝えした通り、現在委託業者と制作を進めております。それと同時に児童館の職員と協働で子ども視点での動画のシナリオへの意見もいただいて、その内容を反映させるような形をとっております。意見交換した中では様々なアイデアが出てきました。なかなか全てを反映させるっていうのはできなかったところなんですけど、できる限り反映させるような形取らせていただいたのと、いただいたアイデアについては後ほど説明するハートフルプロジェクトの協働の中でも生かしていければと考えております。

今回の動画制作自体は単発の事業にはなりますが、今後、市が取り組む施策については子どもの意見を聴く際は児童館職員が協力していくような形となりますので、そのテストケースにもなったのかなと感じているところです。また、子どもの声を聴いて政策に反映させる手段の1つとして、今日野市の方で運営している地域共創プラットフォーム、市民参加型の合意形成プラットフォームがありますが、そちらの方も活用して意見聴取をさせていただきました。こちら令和6年度に始めたばかりなので意見の数が限られたところなんですけど、今後も必要に応じて活用できればと考えております。

なお、今回は子ども条例委員会の委員の皆様からもご意見をいただきました。この場を借りて御礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。当日配布で申し訳ないのですが、本日シナリオの方を配布させていただきました。シナリオに関してはもう大幅な変更は

難しいので、申し訳ないのですが今後の活用方法など、今後、ご意見を改めていただくようになると思いますのでよろしく願いいたします。

完成した動画については日野市の公式 YouTube での配信を予定しているほか、日野市の子ども条例のホームページにリンクを作らせていただきます。どのように今後活用していくのがこれからの課題であると考えているところです。

そうしましたら3ページ目にお進みください。こちら、リーフレットの作成になります。リーフレットについては、今後、多くの人が集まるような場所で配布に利用させていただくほか、ホームページにも掲載させていただいて周知啓発に利用することを考えています。資料4で現時点の案を事前にお示しさせていただいております。

続きまして4ページ目にお進みください。こちら、令和7年度の日野市の子ども条例の推進事業講演会になります。ここからは来年度以降の予定になるんですが、まず4ページ目については今年度に引き続いて子ども条例の周知啓発を目的とした講演会を予定しております。今年度は昨年6月29日の土曜日の午後に開催し、多くの方からお申し込みがあり大変好評をいただいたところです。来年度も7月1日の日野市子ども条例の日の前後に講演会を「みらいく」で開催する予定であります。昨年実施した際にアンケートを実施したところ、土日の方が参加しやすく会場「みらいく」についても、ここでの開催について好意的な意見をいただきましたので、来年度については今年6月28日か7月5日の午後に開催を予定しております。

まだテーマについては調整中なんですが、今のところ子育て支援に関する内容で、仮称ですが「子どもの声を取り入れられる地域づくり」というようなテーマにさせていただいて、講演の他、出席者の中でグループディスカッションによる意見交換をするような形を検討しております。こちら、出席者同士の経験がシェアできるようなものにできればと考えているところです。開催が近くなりましたらホームページ、広報、公式LINE等でお知らせする予定になっております。なお6月28日か7月5日、もしどちらの日の方がいいみたいなお意見あれば参考にさせていただければと思います。

続いて5ページ目にお進みください。こちらお知らせというような形になります。日野市子ども条例については令和6年度までは中学1年生に中学校の方から生徒手帳サイズのポケット版の方を配布しておりましたが、来年度より学習用端末(クロームブック)のブックマークに日野市子ども条例のホームページを入れて、中学1年生に限らず全児童生徒が閲覧できるような仕組みに変更する予定となっております。あわせて市の子ども条例のホームページもリニューアルして、今回、動画作成やリーフレット作成の方でいろいろなお意見いただきましたので、そういったものを反映したホームページにできればと考えております。

続いて6ページ目にお進みください。こちらと同様に来年度の予定なんですが、子ども条例、子どもの権利、子ども・若者の意見表明をテーマとした職員研修を予定しております。こちらは市役所セーフティネットコールセンターとの協働で、子どもの貧困対策研修との

合同研修として準備を進めているところです。詳細についてはまだ実施が先なのでセーフティネットコールセンターと調整していく予定ですが、子どもの権利であったり、子ども・若者の意見表明、政策の反映に関する内容を市職員向けの研修として実施することで、市職員の理解が深まり、それが子どもの権利の保障、擁護につながっていくものと考えております。また、市の取組に子どもの声がより反映されやすくなっていくと思っております。こちらについては次回の委員会で研修の内容についてご意見等いただければと思いますのでよろしく申し上げます。

続きまして7ページ目、最後のページになります。こちら、福祉教育ハートフルプロジェクトとの協働ということで検証事項の2つ目になるのですが、日野市子ども条例であったり、子どもの権利・人権についての周知啓発を推進するため、市役所の障害福祉課、あと、日野市社会福祉協議会が行っている福祉教育ハートフルプロジェクトとの協働について検討を進めているところです。以前から学校での周知啓発を実施してはとの意見をいただいていたところなんですけど、子どもたちであったり、学校側の負担等も考えて親和性の高いこちらの事業との協働、コラボということで検討しているところです。こちら、総合的な学習の時間を活用して伝えることで、多くの児童に子どもの権利について知ってもらえる機会になると考えております。本日は日野市社会福祉協議会より、意見参考人の方に来ていただいておりますので、後ほどハートフルプロジェクトの概要を説明していただいて皆様よりご意見賜り、実施に向けて進めていきたいと考えております。それでは日野市社会福祉協議会の意見参考人の方に説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

意見参考人

皆さんおはようございます。今日はよろしく申し上げます。

本日は貴重なお時間いただきましてありがとうございます。私の方からは今、障害福祉課と社会福祉協議会で一緒に取り組んでいます、福祉教育ハートフルプロジェクトについてご説明をしたいと思います。今回、子ども条例の協働ということで、今まで私たちが福祉教育ハートフルプロジェクトをやっているものとかかなり一致する部分があると思っていますので、今日ご説明を聞いていただきましてこれからの協働について考えていただければと思っています。ちなみに日野第六小学校では、2年間この福祉教育ハートフルプロジェクトを続けていただいていますし、日野第七小学校でも続けて事業を実施させていただいています。

まず、説明をしていきますけれども、お手元に資料も配りしております。この福祉教育ハートフルプロジェクトは「みんなの幸せ」をキーワードに事業を展開しているところです。子ども条例の中でも子どもの幸福ってというのがありましたけれども、私たちも同じように幸せをキーワードに進めています。この福祉教育ハートフルプロジェクトを進めていくうえで一番初めにガイダンスのようなものを行うんですが、みんなの幸せは一人ひとり違うけれども誰もが幸せになりたいと思っている、これを子どもたちと一緒に確認をします。どんなふうに確認をするかということ、自分の幸せと自分のお友達や先生の幸せ、そしてみんな

の幸せっていうのを考えてみようっていうことで、ワークをしながらいろんな人の幸せを見つけていく中で、やはり一人ひとり違うけれどもその一人ひとりの幸せを見つけていく中でみんなが幸せになれる社会をどういう風に作っていかうかっていう、その上でこのハートフルプロジェクトの中では障害のある方やマイノリティの方、そういう人たちに出会ってもらったりとか体験をするっていう中でその幸せになれる社会っていうのを子どもたちと共に考えていくというものです。

この根底にあるのは、偏見や差別のない社会を創っていくというものです。子どもたちに展開しているのは5年後10年後の社会を見据えて子どもと共に作っています。背景としてなんですけれども、平成28年4月に障害者差別解消法が施行されまして、その後日野市で令和2年4月に日野市障害者差別解消推進条例が施行されました。今まで法律や条例ができたとしても、それが実現できたかと言ったらなかなか実現してこなかったということで、実際に法律や条例ができただけではなく行動していかなきゃいけない、そういう市民を一人ひとり育てていくというんですかね、そういうことが必要だろうということです。それに向けて市民の気づきや意識変化、行動を市民全体で実施していく必要があるよねっていうことが背景としてあります。令和3年にいろんな先生や障害のある当事者の方や、特別支援学校の先生と一緒に委員会を組みました。委員会を作る上でいろんな先生をご紹介いただきました。

その中で障害のある方の偏見や差別を無くしていく上で何が必要だろうって考えたときに、やはり最初はパンフレットだとか啓発の何かを作ったらいいんじゃないかって話はあったんですが、ただ世の中を見渡してみるといろんないいパンフレットや冊子っていうのはたくさんあると、ただじゃあそれが活用されているかって言ったらそうじゃなくて社会はなかなか変わっていないなっていうのがあって、我々はじゃあ何をすべきかっていったら、実際に社会を変えていく仕組みや行動が必要だよっていう話をしていました。

その中で着目したのが第3次日野市学校教育基本構想です。その中では「すべての命が喜びあふれる今と未来をつくっていく力」を子どもたちと共に育むことを目的とするとこの第3次学校教育基本構想で掲げていて、これと一緒になっていることを委員会の中で確認しました。

何かっていうと一番初めに申し上げたように5年後、10年後の社会を変えていくっていうところで、子どもたちと共にこのハートフルプロジェクトを進めていこうということです。たぶんこれはご覧になったかと思います。今日は第4次学校教育基本構想を配ってらっしゃるかと思います。

私たちは福祉体験の授業はもう10年以上前から実施しています。福祉体験をしてきて気が付いたことなんですけれども、学校の先生は毎年変わるんですよ。継続して福祉教育を進めていくっていうのはとても課題になっていました。先生たちは福祉事業っていうのはすごく大切だっていうのを感じていますし、効果もあるっていうのは実感しているんですけどもそれがなかなか継続できなかったということです。

その中、福祉教育ハートフルプロジェクトでアンケート調査を行いました。アンケート調査を行ったら、先生は福祉教育を進めたいって人が非常に多かったんですね。それと同時にどうやって進めていけばいいのかわからないって先生も多くいました。じゃあどんなことがあったら進めやすいですかって問いをした時に、福祉学習をコーディネートしてくれる人がいるとか、福祉学習に関してのノウハウを相談できる人がいるとか、そんな言葉が多かったんですね。今コーディネートしてくれる人が一番多かったんですけども、こんなところですよ。

この福祉教育ハートフルプロジェクトを授業の中に取り入れていただくというか、学校に取り入れてもらうために何が必要かなっていったときに、ちょうど GIGA（ギガ）スクール構想というのがあって、1人1台端末を子どもたちが持つってのがあったので、Chromebook（クロームブック）を活用して授業ができたらいいなということで、こういうアンケートも取っています。Chromebook（クロームブック）を使って授業をしていますかっていったら、その時点では結構使っている先生もいたので、今はもっと使っているのが現状かなと思っています。

今、GIGA（ギガ）スクール構想もあって、端末を使って、未来的な希望としては端末を使いながら授業を進めたいんですけど、今ちょっとまだネット環境として一斉にいろんなことをやるっていうのが十分ではないかなってところで、端末は使っていますけれども子どもたち一斉にっていうのはあんまり使ってないです。ただ調べ学習とかでは端末を使って調べ学習をしている子どもたちは非常に多いです。今、福祉教育ハートフルプロジェクトはパートナー校があって、5つのパートナー校と進めています。来年は7つのパートナー校になる予定になっています。どんな授業をやっているかっていうと、気づき、意識変化、体験するっていうこの3つなんですけれども、簡単に言うと知る、考える、行動するっていうそんな感じですね。

実際に令和4年のひのっ子教育（日野市教育広報）でしたっけ、学校で配られているやつなんですけれども、日野第五小学校がパートナー校として一番初めに実施したので取り上げていただいた記事です。どんな風に授業を進めているかという、先ほど申し上げたように一番初めにガイダンスのようなところで、この学習をなぜするのかっていう、どこを目指すのかっていうのを子どもたちと話した上でこの写真にあるように視覚障害のある当事者に来ていただいたりとか、体験をする、車いすの当事者に来ていただいて体験するとか、後は精神障害のある方、実際に視覚障害のある方や車いすの方っていうのは外見で割とわかりやすいところから始まりながら、その後にはやっぱり外から見てわからない障害とか、後 LGBTの方とか、そういった人の話も聞いていきます。

子どもたちとこういう授業を重ねるとどんなことが起きるかっていうと、自分たちで考えて行動し始めます。1つの例としては右下にある学習発表会での手話の披露というのがありますが、これは手話の披露をしようっていう風にこちらから投げかけたわけではなくて、ちょうどこれコロナの時期、まだ収まってない時期で学芸会をした時に歌を録

音して学芸会では歌わずにそれを流すっていう、そういうことだったんですね。でも子どもたちからしてみたら学芸会では何も歌わないっていうのはどうかなっていうことで、子どもたちが考えたのは、手話をして手話表現をもって学習発表会というか学芸会をしようということを子どもたちは計画しました。実際に先生が手話を覚えてそれを子どもたちに伝えて、子どもたちは当日立派に披露していくわけなんですけれども、この時点で社会が変化していく、大人たちに手話表現っていうのがあるんだよっていうことを子どもたちが教えていくっていうことですね。これは子どもたちからの発案ですけれども大きな社会の変化かなって感じています。

日野第七小学校で翌年やったんですけれども、非常に熱心な先生がいて、1学期から授業を進めていきました。総合的な学習の時間というのが小学校には必ずあるんですけれども、これは小学校、中学校、高校すべてあると思います。探求をしていくっていうのが大きなテーマだとは思いますが、総合的な学習の時間で大体小学校4年生は福祉の授業に取り組んでいますね。こちらは日野第七小学校の授業のスライドなんですけれども、非常に丁寧に授業を展開していただきました。先ほどの先生とは単元を作るところから相談をしています。どんな授業を1年間かけてどんなふう子どもたちになってもらいたいねっていうのを話し合いながらこの授業を進めていきました。ですから最初に総合的な学習の時間って何だろうっていうのを子どもたちと考え、話し合い、こんな風な1年間にして行こうっていうのをみんなで確認をしています。この時たまたま副市長も見に来てくれたんですけれども、最初の授業を行っています。最初には脳性麻痺、重度の脳性麻痺の人に来てもらってお話をしてもらいます。子どもたちは重度の脳性麻痺の人に会ったことはほとんどないので、最初教室入ると外国人や宇宙人を見るような感じの表情をして入ってきます。実際に重度ですから話すのもかなり大変なんですよね。だけど話を進めていくうちにだんだん子どもたちの心の変化が生まれてきて、さらには最後に質問してもらおうんですけれども、質問してもらう時に名前を言ってもらおうんですね。そうすると重度の脳性麻痺の方はその子名前を言った後に質問に答えてくれるんです。この時点で心の交流みたいなのが生まれていくわけです。ですから授業で入ってくる時の子どもの表情と出ていくときは全く変わります。

こういうことを繰り返してやっていくんですけれども、こういうの授業をやっていると割と周りに障害のある方や何かハンディキャップのある人がこんな話したいよって出てきます。たまたま先生の家族が重度の脳性麻痺だったっていうことで、その先生自身が当時のことを話してくれたわけですね。障害のある人っていうのは不便を感じることはあっても不幸とは思っていないんだよっていうことを先生はいいます。でも先生はその当時家族のことを隠したいと思ったとか、そんなことを赤裸々に語ってくれるわけなんです。こういうのがこのハートフルプロジェクトの面白いところで、授業を進めていくといろんなことが、いろんな要素がどんどん加わっていったり変化していくっていうことですね。

こんなことを子どもたちと1年間やっていくと子どもたちの意識は変わっていきます。

こちらのスライドは八王子東特別支援学校の子たちとの交流ですね。日野市の中央公園に来てもらって交流しています。これも子どもたちからの発案なんですよ。先ほどの重度の脳性麻痺の方は八王子東特別支援学校の卒業生です。じゃあその学校の人ってどういう人なのかなっていうことを知りたいってことでこの交流が生まれます。こうやって出会うと今度日野第七小学校の子どもたちは八王子東特別支援学校に行きたいということで、実際に行きます。こんな風に交流をしていくわけです。これが八王子東特別支援学校に行った様子ですね。これもですね、私たちは何も言わないで子ども達はこうやって、自分でこんな風にして手伝ったらいんじゃないかなということでも動き始めるわけですね。これは大人が教えなくても子どもたちが考えてやっていきます。

こんな授業を1年間繰り返してやっていくわけですが、これは平山小学校の先生と今年やっている授業ですね。平山小学校はハートフルプロジェクトのパートナー校ではないんですけれども福祉教育を推進したいということで授業を一緒にやっています。その中で差別はなんだろうっていう哲学対話を小学校4年生がやっているんですね。なんか哲学対話って難しそうだなって思うんですけども、こんなことをやるわけなんですけど、ここまでいく間にいろんな授業をやっています。先ほどのハートフルプロジェクトの授業のようなものもやっています。ちょっと見えにくいですが、こうやって哲学対話をすると子どもたちが差別って何だろうってことを一生懸命考えるわけですね。読みにくいかもしれませんが皆さんのお手元にありますので、読んでいただくと感心するというかこんなことを小学校4年生は考えているのかっていう風に改めて私は痛感したんですけれども、こんな力があるということですね。

小学校に加えて中学校ではボランティア部があったりとかして、そういう子たちとも授業ではないんですけれどもボランティア活動、これ能登半島地震の時の募金活動を中学生が自分たちでやりたいってことで、日野駅前ですけれども、小学校だけでなく中学生ともこんなことで一緒にやっています。これは、ある中学生の話なんですけど、今、子ども条例のことで少し加えたいのは、このスライドに映っている生徒は、私が当時話を聞いた少し前にご家族を亡くしています。また別の家族には障害があります。ヤングケアラーっていうことですよ。でもヤングケアラーって意識を本人は当時あまり持っていませんでした。一人ひとり子どもたちは幸せになる権利があったりとか、子ども条例でいろんなことをうたっていると思うんですけども、実感がある子どもたち、自分たちにはその権利があるんだとかそういったことを実感している子たちはそんなに多くはないです。何が申し上げたいかっていうとこのハートフルプロジェクトなどを通して子どもの人権とか子ども条例のことを子どもたちと一緒に作って行けたらいいなと思っているところです。

資料の一番最後ですね。私たち社会福祉協議会自体が地域福祉活動の推進をしています。地域福祉活動って赤ちゃんからお年寄りまで、いろんな人が共に幸せになれるような地域を創っていくというのが根底にあると思うんですけども、その地域福祉活動を進めて

いく上でやはり福祉教育っていうのは欠かせない基礎部分になっています。今の社会とこれからの社会の変化を見据えた活動をこの福祉教育ハートフルプロジェクトで進めているところです。ぜひ日野市子ども条例とも協働していけたらなと思っています。ちょっと早口でしたけれども、私からは以上です。ありがとうございました。

委員長

ご説明ありがとうございました。

それでは今の説明を受けながら検証に入っていきたいと思います。まずご質問、ご意見があればお願いいたします。なお、意見参考人は障害者週間の実行委員会があり、後程、離席されますので意見参考人への質問などがあれば先にお願ひしたいと思います。それではご質問・ご意見ありましたらどうぞ。

お願いいたします。

委員

ありがとうございます。

まず今のご報告の方を聞かせていただいて子どもの力ってやっぱりすごいなっていう風に思ったのが一番大きな感想です。ちょっとのことで子どもたちの意識が変わっていくことをこの短い報告の説明資料の中からもとてもよくくみ取ることができました。ありがとうございます。

私の方からの質問ですけれども、このハートフルプロジェクト、今、行っているパートナー校が5校で、来年度から7校に増えるっていうお話でしたけど、それは小学校、中学校とも合わせての数なのかっていうことと、これから先どのようにこのプロジェクトを展開していくのか、もっとたくさんの学校で行っていくご予定があるのかっていうところを教えてくださいたいと思います。お願いします。

意見参考人

ご質問ありがとうございます。

まず最初の質問ですけれども、基本的に今は小学校のパートナー校でやっています。障害福祉課としては全ての学校でこのハートフルプロジェクトを展開したいっていう計画を今作っていると思うんですけれども、パートナー校は5校ってなっていますが、先ほど言ったように福祉教育自体は実はやっているんですね。これは社会福祉協議会が独自ですってやってきたことなので今年もパートナー校と合わせて15校ぐらひはやっています。決して同じ内容ではないんですけれども、その学校や先生の進めたいやり方とかそんなことを聞きながら授業をやっています。ありがとうございます。

委員長

ありがとうございました。
他いかがでしょうか。

委員

私の子どもも意見参考人の方が発表された大変熱心で優秀な先生が担任だった4年生の時に授業を受けており、1年間で私の子どもも非常に成長していく様を私も家族として見ていて、やっぱり体験によるものっていうのは成長につながってくるなと思うところです。私から質問をさせていただきたいのは子ども条例、子どもの権利を守るっていうところと、障害の福祉教育って非常に重要なテーマであると思うんですけど、この枠組みと別に子どもの権利を考えることを日野社会福祉協議会として取り組める余地というのは、社会福祉協議会のマンパワー的な部分で実現可能なものなのか、それが可能だとしたらどのような市からのサポートがあれば可能なかっていうところをお聞かせいただければと思います。

意見参考人

ありがとうございます。

今のご質問についてなんですけれども、福祉教育ハートフルプロジェクト自体が障害福祉課からの委託事業ではあるけれども、話し合いの中で、障害者だから偏見や差別が生まれるものではなくて、すべてのものにおいて偏見や差別っていうのが生まれてくるので、実は先ほど申し上げた授業の中では障害のある方だけではなくてLGBTの方や認知症の高齢者の家族の方などいろんな人に出会ってもらっているんですね。ハートフルプロジェクトっていうのは偏見や差別を無くすためにいろんな人との出会いを大切にしています。

子ども条例の基本理念の中に子どもは一人ひとりの人間として人格や個性が尊重されますっていうところなんですけど、考え方としては子どもだけではなくて全ての人は一人の人間として人格や個性が尊重されるっていうことだと思うので、私はハートフルプロジェクトの中で一緒にやっていくことは可能かなとは思っていますし、最初の授業の中で人権の話はしているんですね。基本的人権はこうだよみたいな話はしていないんですけども、みんな幸せになる権利を一人ひとりが持っている、それがあなた自身、自分自身もそうなんだよっていう話をして進めているので、そういった意味ではどういう形なのかはわからないんですけども、一緒に授業を展開することは可能かなと思っています。

先ほど平山小学校の先生が哲学対話やったみたいに、もしかしたらどこかのタイミングで子どもの人権とか子ども条例についての対話をするとか、そういう時間を取ってもいいかなと想像していました。以上です。

委員長

ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

事務局

先ほどの次第の修正にもあったとおり、ハートフルプロジェクト自体の検証のためにここで説明していただいた訳ではないところで委員の質問を受けているところですが、意見参考人からもあった通り、差別や偏見の根底のところ子ども権利、子ども条例では権利と言っているんですけど、ここでいう権利は元々人が生まれながらにして持っている人権を指すので、先ほどもどちらかと言えば事業の実現可能性の面を強調して、ハートフルプロジェクトと協働した方が子どもや学校側も新たに授業をやる負担がないという話はさせていただいたんですけど、授業の目的や理念の面で親和性が高いということが事務局として今回の委員会で検証事項とした理由です。今回意見参考人来ていただき、委員の皆様にご意見いただければとこの場を設けさせていただいたので、子ども条例の周知啓発の視点で今後ご意見いただければと思います。

意見参考人

あとすみません。市からどんな支援が必要かというマンパワー的には結構厳しいというか、僕はほとんど毎日どこかの小学校行ってるんじゃないかなって感じなんですけど、人が大事なので人がいたらいいなって思っています。

委員長

他にいかがでしょうか。

委員

スライドの序盤の方の「福祉体験をしてきて」というタイトルのページですけれども、毎年学校の先生方から福祉体験の要望があり、行うことによる効果も先生として実感を持っていると書かれています。こちらの福祉体験の効果を学校の先生方が実感として持たれているということで、例えばどのようなお声が届いているのかお伺いできればうれしいです。以上です。

意見参考人

ありがとうございます。

総合的な学習の時間ってやらなきゃいけないっていうのがあるんですけども、総合的な学習の時間だけは教科書のようなものがないんですよね。ですから先生たちはゼロからこの授業を作っていくのですけれども、そうすると先生たちは何をしたらいいんだろうかというところから始まり、非常に困るんですよね。でもとりあえず福祉の授業をやらなきゃいけないっていうのがあるんですけど、どんなふう実感していくかっていうと最初に子ども

もたちがこうなってほしいなっていう思いを相談しながら、じゃあこんな授業にしていきましようかっていうところで、先生たちはどんな風に変化していくかっていうのはその時点ではわからないわけですね。でも授業をしていく中で当事者の人の話や体験をしていくと、子どもたちからの意見や行動がどんどん変わっていくんです。

エピソードとしては、ある小学校でお母さんに精神疾患があるっていう子がいました。その子は3学期の時に、実は僕のお母さんには精神疾患があるんだよってみんなの前で話したんですね。先生と話を聞いていたらそのお母さんはクラスの保護者の中でも保護者会とかで保護者とのトラブルがいっぱいあって、ちょっと困っていたっていうところがありました。でもその子が1年間授業を重ねていく上で、3学期にそうやって話した時に、教室の雰囲気が驚きというよりはとても温かい雰囲気だったんですね。1学期の時には話せなかったけれども繰り返し聞くことによって話せた、話せることによって子どもたちが保護者に精神疾患ってこういうことなんだよかっていう話をする少し優しくなれるんですよ。先生たちはそういうことを子どもたちから聞いたりとか見たりして実感していくわけです。

先生たちも最初の授業の時にはこの授業大丈夫かなとか思いながらやっていくんですけども、どんどん子どもたちが変わっていくので先生も楽しくなっていくんですね。そうすると先生が今度こういう人を呼んでほしいとかこんな授業をやりたいとか、そんな風に変化していくので、そういう意味では効果とか実感を先生自体が体感しているんじゃないかなって思っています。

委員長

他にいかがでしょうか。

委員

ハートフルプロジェクトについてご紹介いただきましてありがとうございました。この授業との協働の部分と、周知啓発の部分、両方からの絡むと思うのですが、先ほど他の委員がおっしゃられたとおりこの事業をどういう形で協働していくのかっていうところはこれからたぶん詰められていくんだろうと思うのですが、先ほどの周知啓発のところの資料の2の方で5枚目のスライドで、今後この条例のポケット版の配布ではなくてChromebook(クロームブック)の方にそれを入れるというご案内をいただきました。今のデジタル時代でこの変更自体は良いとは思いますが、えてしてあるのがやはりこういうリンクが貼られただけですと、誰も見ないということがあります。子どもたちに条例のポケット版を配布すると、その場で見て大体ざっとでもこういうことが書いてあるんだなって見る機会はあると思うんですが、今回ブックマークに入れるという時でも子どもたちが何らかの形で必ず見るという機会をどこかで保障していただきたいなと思い、やはり授業の中で触れられるのがやはり一番いいのかなと思いました。

人が不足するという部分とも絡むかと思えますし、この事業の協働について1つご提案ですけれども、この授業でそれぞれの方々がそれぞれの個性を持って、それぞれの方が幸せにいること、偏見・差別のないことというのはまさにその人権の根本の部分ですので、その理解がこの授業でとても深まると思うんです。さらに自分の人権が侵害されてしまった時にどうすればよいのかということについて、今の構成案だけではどのぐらい触れられているのかがわからなかったのですけれども、子どもたちの自発的な授業展開の希望のなかではそういった事柄は出てこないと思うのですが、権利侵害があった時にどうすればいいんだよってという事柄についても考えてもらったりとか知識も入れてもらったりとか、そういう機会というのはぜひ入れていただきたいなと思います。

その時にはぜひ子どもオンブズパーソンも設けていますので、その方々とのコラボレーションも考えていただければなと思いました。以上です。

事務局

貴重なご意見いただきましてありがとうございます。今、お話があった通り、当然誰でもアクセスできる状況だけつくりました、結局子どもたちに触れられませんでした、っていうことでは意味がないと思います。今回は、以前に中学1年生以外にも子ども条例に触れる機会をというご提案いただいたところで、こういった変更があったという報告をさせていただきましたけれども、ハートフルプロジェクトとの協働や今後の周知啓発の中でそういった視点は忘れずに、ちゃんと見てもらわないと意味ないよ、というところは必要と思います。今回、詳細は資料にございませんが、今後、子どもオンブズパーソンの取組も学校やPTAを通じてっていうことを子どもオンブズパーソンでも検討していると聞いておりますので、子ども条例の取組も含めて進めていければなと思いますので、いただいたご意見を参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。

委員長

今ハートフルプロジェクトとそれから周知啓発という重なる部分でご質問ありましたけれど、先ほどお伝えしたように意見参考人の時間のこともありますのでハートフルプロジェクトの質問やご意見等ありましたらお願いいたします。

委員

ハートフルプロジェクトの福祉教育に関してなんですけれども、これは4年生だけを対象としたものになっていると思うのですが、これを偶数年とか奇数学年とかを対象に、1年かけてこういうことを学ぶっていうことは、私自身も小学生の時にこういう経験したことがあるので、今でもその経験は頭の片隅ぐらいにしか残ってはいないんですけれども、点字を打ったりとか車いすを押したりとか日常的にそういう経験がない方たちには、とても面白いと言ったら変ですけれども、こういう世界もあるんだっていう自分の知らない経験が

できたり世界を知ることにもなる、知見が広がるというのがいいことかなって思います。将来、福祉というのは障害者福祉だけではなく赤ちゃんからお年寄りまでみんなが幸せに楽しく暮らせる社会を作っていくことなんだよっていうことを考えることができる大人に、きつとつながっていく子どもはたくさんいるんだろなって感じます。ぜひ4年生だけに特化した授業展開というより、年間通して小学校、中学校、高校まで、高校はちょっと興味がある子しかつながらないかな、探求の授業っていうところにはつながらないかなって思うんですけど、興味のある子たちにはずっとつながっていくような学びのものをつくってあげたいんじゃないかなって思いました。

意見参考人

ありがとうございます。

実際4年生以外にも3年生でやっていたりとか、5年生でやっているっていう学校もあるんですけども、主に4年生が多いということで今日、話をさせていただきました。ほんとおっしゃる通りでいろんなフェイズっていうんですかね、小学校の時に考えること、中学校の時に考えること、高校で考えることってというのがだんだん変わってきたりとか、経験によって変わってくるっていうものもあると思うので、それぞれの年で今一度考えてみるっていうのは大切かなと思っています。

社会福祉協議会では福祉教育ハートフルプロジェクト以外にも小学校6年生で防災の授業をやっていて、防災の授業の中に障害のある方や被災者の気持ちを考えるとかいう授業もやっています。ハートフルプロジェクトという枠組みの中では今回説明したところではあるんですけども、ぜひいろんな場面で社会福祉協議会の事業っていうんですかね、活用していただきたいなと思います。貴重な意見ありがとうございました。

委員長

他よろしいでしょうか。

委員

お世話になっています。いつもありがとうございます。

社会福祉協議会とは今年度・昨年度ととてもお世話になっております。今お話しいただいたように福祉の勉強を通して、地域社会に対してどういう風に自分たちが関わっていけばいいかっていうところが学習の目的になる総合的な学習の時間って、福祉の勉強をするというよりは福祉を通して自分たちの課題を探求していく、調べていく、例えば3年生だったら安全について、5年生は環境、6年生はキャリア教育、おおよその目的を持って自分たちが課題とか知りたいことをさらに調べていくっていうことが総合的な学習の時間っていう風にとらえていただけるといいかなと思っています。

福祉を通してっていうのは本校でも4年生が中心になっているんですが、やはり体験を

通すとやっぱり子どもたちは自分たちの生活とちょっと違うというものを感じながらも、でも自分と同じように同じ地域に住んでいる人、同じ市内に住んでいる人を大切にしていけないといけないんだな、自分たちがやれることはなんなのかっていうことを考えることができ、非常に成果があるなと思っています。

なので、一緒に生活しなくてはいけないってところを考えながら、で反対側から見ると自分たちもやっぱり自分たちの権利をしっかり守っていかないといけないし、守ってもらわないといけないってところで、子ども条例との関わりというのは非常に深いかなと、裏と表って言ったら変ですけども、そういうような関係になっているところで協働的な進め方っていいかなと思っています。

先ほどブックマークに載せて見る時間ということがありましたが、この総合的な学習の時間のまとめであったり、人権についてという道徳での学習を通してなど、そういうところで見ると可能かなと思っています。ただ1年生から小さい学年の子たちにはちょっとやっぱり解説等も含めていかないといけないので、そこは考えていかないかなって思っていますが、学校で活用していくことってのは非常に効果的かなと、中学1年生しかこれを見ていないってことなので、早い時期から目を通してこういうことがあるんだってことを子どもたちが意識できるのはとてもいいことかなと思っています。以上です。

委員長

ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

(意見参考人 退席)

委員長

ありがとうございます。それではまだ時間ございますので先ほど事務局からあった話も含めまして、いわゆる子ども条例の周知啓発について、そのあたりにちょっと焦点絞って、それから先ほど委員がおっしゃったいわゆる人権、子どもの権利ってところからいくと権利侵害は非常に大事になってくるのかな、子どもたちが気づく場合もあれば声が出せないってこともあるでしょう。そういうことも含めまして、そこだけじゃないですけども、そういったところでお話がもう少しできればと思います。

何かご意見等ございましたら、先ほどの事務局からの話に対してのご質問等ありましたらお願いいたします。

委員

ありがとうございます。

先ほど委員の方がお話になっていらしたように、学校の一人一人の端末からアクセスが

できるようになるっていうお話で、そこはリンクを貼るだけにとどめてほしくないというお話でしたけれども、まずは中学校1年生に冊子を配るだけであったことを小学生の内から触れられるようにして下さったこの取組自体にまず私は評価をさせていただきたいと思います。小さな時から触れていくっていうことが大事になってくるかなと思っていますので、今回 Chromebook (クロームブック) の方に入れていただけるということは私としては本当にありがたく思っています。

そうですね、あまり日頃、子どもたち自身が自分たちの権利侵害について考えているような状況っていうのは、子どもの日常的な生活の部分でそれを意識するっていうことがいいものではないと私は日頃から思っていて、自分の権利が全て守られた状態で全く意識せずに生活できるということがベストだとは思っています。ただ、権利侵害についてはそれが権利障害であるということがわかるためにはやはり知識というものが必要で、育つ権利、守り守られる権利、生きる権利、参加する権利っていうものを子どもたちがまずは知識として知って、さらにその上で「もしかしたら権利侵害があるかもしれない」というような形で結びついていくことが大切だと感じます。

先ほど意見参考人さんの方がお話になっていた生徒の方ですかね、彼自身がヤングケアラーであるということを最初は意識していなかったけれども次第ににわかってきたっていうところ、そのプロセスに興味はあったんですけども、「もしかしたら自分はヤングケアラーなのかもしれない」とか、「自分は虐待を受けているのかもしれない」とか、そういう風に思っていく過程の中でこの子ども条例っていうものが役に立っていったらいいかなって私は思っています。

先ほどのハートフルプロジェクトの説明資料を見させていただいた中で、こういった福祉教育の延長上に自分の権利があるんだっていうところに結び付いていたらこの福祉教育ハートフルプロジェクトっていうのもすごく利用価値があるというか、コラボレーションとしてはとても良いものかなと思っています。以上です。ありがとうございます。

委員長

ありがとうございました。

他いかがでしょうか。

お願いいたします。

委員

日野市子ども条例の周知啓発事業についてですけど、のっちくんの動画を作るという話と関連してくるのかなって感じるんですけど、中学生に子ども条例の冊子を配って、これが子どもの権利ですよ、読んでおいてくださいねっていうのも、これまでもやってきたことだと思うんですけど、周知に至ってないっていうところはあると思うんです。それが Chromebook (クロームブック) の中に入って、のっちくんの動画と条例のホームページがで

きるっていう形なんですかね、リニューアルってさっきおっしゃっていましたが、ホームページの内容がリニューアルされるっていうことなのでしょうけど、のっちくんが大まかに紹介している生きる権利、育つ権利、守り守られる権利、あと子どもが参加する権利というこの4つの権利をじっくり動画の中で紹介しているんですけど、この動画を見て自分は生きる権利、条文の中には8つ事項が書いてあるんですけど、自分はどんなことが好きなんだろう、自分が何をもって健康と思うんだらうとか、自分なりの子ども条例をつくれる場所みたいな、動画を見て得た知識を持って自分の好きなことを書いてみよう、のっちくんが言ってることで思いついたことを書いてみて自分なりの権利条約、子ども条例を作ってみようみたいなサイトというかページがあって、さらにそこには自分を守ってくれる人はどんな人がある、どこ行ったら助けてって言えるっていう、権利侵害とまではいかないけれど、どこ行ったら自分は安心できるかなっていう、そういう居場所が自分にはあるかなっていうことを考えるきっかけになるような、なんか自発的に子ども条例を自分なりにアレンジしたものが作れるものっていうのがあってもいいのかなって感じました。以上です。

委員長

ありがとうございます。

事務局

貴重なご意見いただきましてありがとうございます。今、委員からいただいた意見については、実は動画作る過程で児童館の職員とのやり取りの中でもあったのですが、なかなか子ども条例に書いてある「幸せ」とか「自分らしく」というのは当然総論としては大切なことっていうのは共通認識として明らかなんですけど、やっぱり人によって子どもによって一言で「幸せ」といっても様々で、動画を止めずに最初から最後まで流してしまうとなんか自分にとっての幸せとか自分らしさって何って考える間もなく動画が進んでいくんじゃないかという意見もいただきました。先ほど意見参考人からもあった通り、世の中に啓発用の動画とあって既にいっぱいいいものはあるよねって中で、どうやって活用するかっていうのが重要と思います。今いただいた委員からの意見につながるのですが、これを使ってじゃあ考え深めていこうっていうのも今後ハートフルプロジェクトとの協働の中で組み入れていくことを実は考えていたところなんですけれど、今あるツールをどうやって使っていかっていうところは改めて考えていきたいと思います。こういったご意見等いただけるよう今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。ありがとうございます。

委員長

他よろしいでしょうか。

今、事務局の方から今後周知啓発っていうことについてこれからどういう手段でというか方法でっていうのは考えていくっていうのがあり、たぶん今日だけじゃなくてこの後ま

たお話ができると思います。終わりの時間になってまいりましたので、限られた時間の中で皆さん参加されていると思いますので、ここでいったんここは止めさせていただいて次回に入りたいと思います。

次は次第の4、その他になりますけど、何かございますでしょうか。

委員

前回の委員会で、学校に登校できていない子が「体験をすることがいいよね」って言われてもそういう子が参加できないってなると参加する権利がどうなってしまうのかなってありましたよね。例えば、学校に登校できていない子たちが例えば Chromebook（クロームブック）で「みんなの幸せプロジェクト（福祉教育ハートフルプロジェクト）」については常に自宅でも Chromebook（クロームブック）で参加できるような配慮を行うといったように、適応指導教室（わかば教室）に行っている子とか情緒固定学級とかフリースクールに通っている子に対してもこういった授業を学校に通っていることと同じように受けれるような環境をつくってすべての子どもの参加する権利っていうところを保障できないのかと思います。地元の小学校や中学校が参加する場としての主たる場所になるので、そこに対するアクセスっていうところを子ども条例の参加する権利の保障という視点でどうにかできないかと思います。今学校に登校できていない子どもでも学校まで送ってくれれば大丈夫とかだったら学校ボランティアとして家から学校まで一緒に歩いて行ってくれるとか車で学校まで送るよっていうボランティアの方とかいらっしゃるんじゃないのかなと思うんですよね。そういうボランティアを募集するとかファミリーサポートを雇うとかの仕組みを作るとか。今日もワークショップとか妄想実現課とかすごく面白いと思うし、やってない自治体が多い中でやってることは当然評価されるべきだと思うんですけど、せっかくそこまで面白いことをやるのであれば、子どもの権利や子ども条例との関係の中でやるのであれば、そこでじゃあ実行しようっていうところまで結び付けていただけるとすごくいいと思うし。市長と副市長が「しかのこのこのここしたんたん」の動画を放映されているので私も見て笑っちゃったんですけど、ほんと面白い自治体だと私は市民として思っているんで、経済的な部分を市が担保するとか、参加する権利はこういう風に保障しますとか、今一歩進めていただけると市民としてすごくうれしいなと思います。以上です。

委員長

そうですね、第2回でしたかね、前回の時にそういう話が出てやっぱり学校行くことを前提とした話、ただ不登校とか長期で病欠とか様々あります。そのあたりのこと、参加する権利ってまずはそこでできていないという、本当に貴重なご意見で、これは私も委員長として失念しました。そこはやっぱり大事なところで、また周知するとかいろんな意味でこの条例委員会で話をしていかなきゃいけないことかと思っております。次回に必ずという約束で先へ進めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

その他っていうことで何かございますでしょうか。

ないようでしたら以上で本日の議題はすべて終了しました。貴重なご意見がありましたので今後の施策に活かしていただければと思います。

最後に今後の委員会の日程の確認を事務局からお願いいたします。

事務局

それでは資料4の次回及び次々回の令和7年度委員会の日程についてご案内させていただきます。次回については7月を予定しております。先の委員会の中で、月初は皆様お忙しかったり校長会等もあつたりしますので外しております。今回有力な候補日時として7月14日の月曜日と7月15日の火曜日を事務局からご案内させていただきます。あと資料には夏休み期間の7月20日以降の日付であったり、委員より参加が難しいと言われた木曜、金曜の候補日時も入れさせていただいております。来年度につきましては12年に1度の選挙の多い年であり、5年に1度の国勢調査がある年で、会議室が取れないような状況があるところです。また、4月に市長選もあるところで、委員会をつつがなく開催するために事前に日程や会場の方を押さえておく必要がありますので、ご協力の程よろしく申し上げます。また合わせて参考に次々回予定の1月候補日時も資料の方に掲載させていただいております。事務局からの説明は以上です。

委員長

それでは事務局の説明があつた候補日の内、ご都合の悪い日があればご発言をお願いいたします。

また、委員会開催時間帯について午前午後、どちらかがよいかについてもご意見があればご発言をお願いいたします。

(日程調整を行ったが全委員の都合が良い日を設定できず)

(後日調整の結果、次回は7月8日火曜の13時30分から決定)

委員長

以上を持ちまして本日の委員会を終了いたします。お疲れ様でした。